

魂は細部に宿る

小さな変化、一瞬が重要

2018. 10. 23

No.35

校長 渡邊 幸二

今日のいきいきタイムでは、素敵な琴の音も聞こえましたが、おそらく北前太鼓の音がそれをかき消していたのではないかと想像します(T先生、ゴメンナサイ)。6年生に訊くと、学習発表会での発表がラストステージだということでした。なんだかさびしい気がします。

今日の練習会には多くのクラブ員が集ってくれました。遊びたいのをある意味我慢して、自分の貴重な時間を練習につき込んでいる姿は、本当に嬉しくありがたく思えました。まさに**貢献の姿**でありました。そんな子どもたちの成長を支えてくださっている先生方にも感謝いたします。



魂は細部に宿る

練習では、ちょっとした腕の上げ方ですが、それをもっとまっすぐするよう、M先生やK先生が指導されていました。言われてみれば、そうした方がもっとカッコいいと思えますが、素人の私には気づけないことでした。おそらくそうしたちょっとした違いが、当日の姿や音に大きな違いを生むのでしょう。まさしく「**魂は細部に宿る**」です。

この「魂は細部に宿る」ということですが、全てのことに共通して言えることです。たとえば、そうじの仕方一つにしてもそう思います。

右の写真は、昨日のそうじ風景の一コマです。**5年生のK君**が、掲示用のテーブルの下にほうきを突っ込んでゴミをかき出してくれています。こういう細やかな動きの中に、その子どものそうじに対する考えが見えてきます。つまり大きく言えば、**その子どもの人生へのスタンス**となっていくようなことだと思っています。

ですから、休憩時間をつぶしてまで練習に一生懸命励む子どもたちの姿は、今日のほんの一瞬の小さな出来事ですが、**そこに魂が込められている**……その子どもの哲学、生き方が詰め込まれるということです。

もちろん、毎度毎度そうできないところが人間ですから、我々がそれを導いていく必要はあります。我々が行っている教育というのは、大きなことを大きく指導するということではないのでしょうか。たとえ大きな目標であっても、日々の小さな、一瞬一瞬を大切にしていっていかないと云えます。



時間を守ること、会釈をすること

昨日、私は、そうじの時間が迫っているにもかかわらずグラウンドで遊んでいる子どもたちに喝を入れました。先日はK. H先生が喝を入れていましたが、5分前行動でそうじ場所に集まるということは、ていねいな心のこもったそうじにつながります。そしてそれは、大きく言えば「約束を守ること」「誰かの痛みをわかること」「公平・責任……」といったことがわかり、できるようになることにつながっていくと思うのです。

まして、自然教室で「5分前行動」をめあてに過ごしてきた子どもたちですから、それはそれ、これはこれでは何の意味もありません。



授業やそうじの始まりの時間を守る(もちろん余裕を持って)というのは小さなことですが、これからのその子どもたちの人生につながる、まさしく魂の話だと思うのですが、先生方はどう思いますか。

同じように、子どもたちに「思いやりの心」を持たせたいという時は、これまた小さなことに注目することになるでしょう。

昨日の校長室だよりでも述べましたが、それは「さん付け」という行動を変えることによって達成されます。会釈ということをしていねいに行くことによって培われます。毎朝の登校の際、「おはようございます。」「ありがとうございました。」と言うことで思考が変わってきます。そういう行動はほんのわずかなことです。でも、そのような小さな行動をする、続けていくことによって魂は宿ると思うのです。

登校の際に、もし止まってくれた車に「頭を下げる」「お礼を言う」という行動ができるようになれば、他者意識・思いやりの心だけでなく、周囲を見渡し安全を確認すること、自分で自分の命を守ることにもつながっていくと思います(これも子どもたちに推奨ください)。須藤元気氏は、「行動が変われば言葉-思考が変わる」とも言っていました。まさにその通りです。

千里の道も一歩から……我々の教育の営みは、きっとそういうものです。

